

第7章 学校事務職員の経験と専門性

8領域の職務の遂行にあたっては、教育目標の達成に向け編成され実行されなければならない。それは、教育目標達成のための課題解決であり、その計画・実施・評価(plan-do-see)である。課題解決の方法は、学校事務職員の職務の執務基準の習熟からなる。

執務の量的・質的・方法的な執務基準は、日常の事務活動(執務)を学校経営に対応させ、意識的に編成し実行していくという経験の積み重ねから深化し拡大していく。この経験の積み重ねが課題解決のための知識を生み、法令の適正執行や行政過程と教育活動の関係を整理させ、課題の認識を高めることとなり、執務による課題解決を図る結果へとつながっている。これが執務基準の習熟に向けた一過程である。

執務基準の習熟は、職務をPDSサイクル(plan-do-see)から問い直し、それを経験として積み重ねることから展開し発達する。その過程は、先に述べたように意識と経験で知識の量を増やし、その知識をもとに経験の積み重ねから技能の質をさらに高める。そして、その技能をもとにした経験の積み重ねが学校事務職員としての専門性を確立することにつながっていくものである。

この専門性は、PDSサイクルの中で生じる職務遂行の複雑度や課題解決への取り組みから生じる精神的(知的・神経・感覚)過程の困難度からもうかがうことができる。

